

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

鹿児島女子短期大学点検・評価委員会、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)

(責任者名) 村若 修

(役職名) 学長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)において、プログラムの履修状況・単位取得状況を分析する。また、授業支援システムの学習記録から課題毎の提出率等を把握したうえで課題の難易度の適正化をするなど、修得状況の改善に活用している。
学修成果	鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)において、授業評価の得点分布を分析することで全体的な理解度を把握するほか、授業支援システムの学習記録から課題毎の提出率等を分析し、学習内容(スキルセット)毎の理解度を把握することができる。これらの結果を本教育プログラムの改善に活用している。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本教育プログラムの履修者全員に対して授業理解度アンケートを実施しており、鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会(旧:鹿児島女子短期大学数理・データサイエンス・AI教育推進部会)及びIR室において学生の理解度を分析し、授業改善に活用している。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	本学では推奨度は確認していないが、履修者全員に対して実施している授業理解度アンケートにおいて、後輩学生への履修時の心構えや関連して履修すべき科目等について確認している。その結果は本教育プログラムの専用ページに掲載し、後輩学生への履修時の参考情報として活用している。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本学では本教育プログラムを令和5年度入学生より開始している。令和6年度入学生に対しては、新入生オリエンテーションにおいて、積極的に履修を進めているが、令和5年度の履修率56%(1年生303名中170名が履修)に対し、令和6年度前期時点の履修率は50%(1年生261名中130名が履修)である。なお、本学では、前期と後期に当該プログラムに必要な一般教養科目を配置しており、後期の履修に際し、今後、各学科・専攻において周知徹底を図っていきたい。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>まだ修了者のほとんどが在学中であり、進路は決定していないが、修了者の中には、情報関連分野の企業への就職を志望する学生も出てきている。情報関連分野以外の民間企業や公務員志望の学生においても本教育プログラムで学んだ知識を活かせると考えているようである。</p> <p>本プログラムに対して産業界から直接意見をもらうといったことはこれまで行っていない。しかし、本学で年1回開催している地域連携会議において、キャリア教育を通して産業界との交流が見込まれており、意見を求める機会を設けたいと考えている。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>本プログラムの授業科目の導入において、時事的なトピックを交えて、数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義等について理解を深めるよう取り組んでいる。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>内容・水準の維持・向上については、「数理・データサイエンス・AI リテラシーレベルのモデルカリキュラム」に基づきリテラシーレベルの内容の確実な習得を計画するとともに、モデルカリキュラムの「オプション」内容をできる限り盛り込み、学生が実際に手を動かしながら実感できる演習を充実させることで、分かりやすい授業となるよう改善を進める。</p>